

はじめに



はじめに

ごあいさつ



G20岡山保健大臣会合支援推進協議会 会長
岡山市長

大森 雅夫

日本で初めての開催となったG20大阪サミットの関係閣僚会合として、令和元年10月19日から2日間にわたりG20岡山保健大臣会合が岡山市で開催されました。

会合では、世界的な課題となりつつある「高齢化への対応」などをテーマに、34の国・地域・国際機関の代表者による議論が重ねられ、「健康寿命の延伸と生活の質の向上を保健医療施策において重視すること」などを盛り込んだ「2019年G20岡山保健大臣会合宣言」が採択されました。

「全国に誇る、傑出した安心を築く『健康福祉・環境都市』」を将来都市像の1つとして掲げ、その実現を目指す本市において、このような会合が開催され、岡山の名を冠した宣言が世界へ発信されたことは、非常に意義深いものであると考えております。

また、会合の開催支援に向けて、岡山県をはじめ、保健医療関係団体や経済団体、大学など37の団体の皆様とともに設立したG20岡山保健大臣会合支援推進協議会では、岡山の目指すべき保健医療の姿を議論し、「Positive Health Okayama (PHO)」として取りまとめました。会合開会セッションではその概要を発表する機会をいただき、「子どもからお年寄りまで、病気や障害などの有無にかかわらず生きがいを持ち活躍できる社会を様々な領域・関係者が一体となって目指す」という岡山の決意を世界に向けて発信することができました。

協議会主催の歓迎レセプションにおいては岡山産、瀬戸内産の食材をふんだんに使用した料理や旬のフルーツ、地酒等を提供したほか、備中神楽などの伝統芸能を披露いたしました。岡山ならではのおもてなしは参加者の皆様から大変ご好評いただきました。さらに、地元小学生によるメッセージカードやエスコートなど温かいホスピタリティを通じて岡山の魅力を多くの方々を感じていただけたのではないかと思います。

このたびの会合は、本市で開催された初めての閣僚級会合となりました。この大規模な会合の開催を協議会の皆様とともに支援し、岡山の持つ多彩な魅力を発信できたことは本市にとって大きな自信となりました。この経験を糧にさらなる国際会議の誘致に取り組むとともに、PHOの理念の実現に向けて歩みを進めていくことで、本市のさらなる飛躍につなげてまいりたいと考えております。

最後に、厚生労働省をはじめ、当協議会の構成団体の皆様、市民・県民の皆様、その他関係者の皆様からの多大なご支援、ご協力に対し、心から感謝申し上げます。

ごあいさつ



G20岡山保健大臣会合支援推進協議会 顧問
岡山県知事

伊原本 隆太

世界の30を超える国・地域および国際機関の方々が岡山に集い開催された、G20岡山保健大臣会合が、成功裏に閉幕しましたことを大変喜ばしく感じております。

岡山県では、県政の羅針盤である「新晴れの国おかやま生き生きプラン」に基づき、すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き生き岡山」の実現を目指し、市町村をはじめ、関係機関や企業・事業者、ボランティア、NPOといった多様な主体との連携により、保健、医療、福祉の充実や少子化対策などといった課題の解決に向け、各種施策に積極的に取り組んでおります。

こうした中、会合では「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成」「高齢化への対応」「AMR(薬剤耐性)を含む健康危機への対応」をテーマに活発な意見交換が行われ、今後必要となる政策の方向性を盛り込んだ大臣宣言が、ここ岡山で採択されたことは、非常に意義深く、これからの健康・医療施策の推進に大きな弾みになるものと考えております。

また、会合の開催に向けて、県内各地で、さまざまな関係機関・関係団体による多様なイベントが開催され、健康や医療などについて、県民の皆様が改めて身近な問題として考えていただく機会となりました。これからも、会合のテーマである、高齢化や健康危機などの課題に県民一人ひとりが関心を持ち、できることから行動することが、健康で生きる喜びを感じることができる社会の実現につながると確信しています。

会合期間中は、地元歓迎レセプションや岡山後楽園のご案内など、岡山ならではのおもてなしで、本県の豊かな歴史、文化などさまざまな魅力をお伝えすることができ、各国・地域および国際機関の方々からも高い評価をいただきました。このたびの会合での成果を生かし、引き続き、世界に向けて岡山の魅力を積極的に発信してまいりたいと存じます。

最後になりましたが、G20岡山保健大臣会合の岡山での開催にご尽力いただいた厚生労働大臣をはじめ厚生労働省関係者の皆様に敬意と感謝の意を表しますとともに、開催地である岡山市、警備やさまざまな分野で開催にご協力いただいた皆様に心から感謝を申し上げます。

はじめに

ごあいさつ



厚生労働大臣

加藤 勝信

我が国で初めての開催となったG20保健大臣会合は、10月19日から20日にわたり開催され、地元の岡山市をはじめ多くの関係者の皆様方のご協力により、成功裏に終えることができました。

今回のG20保健大臣会合では、①ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の達成、②高齢化への対応、③健康危機への対応についての3つをテーマに、G20と招待国の保健大臣等と議論を行い、「G20岡山保健大臣会合宣言」を採択しました。

具体的には、「UHCの達成」については、デジタル技術やデータの活用の一層の推進、財務当局との連携による安定した保健財政の確保といった政策の方向性を共有するとともに、G20が今後も世界のUHC達成に貢献していくことで一致いたしました。また、G20保健大臣会合として初めて議題に取り上げた「高齢化への対応」については、高齢化のフロントランナーである我が国の経験として、生涯を通じた健康寿命延伸への取り組みの重要性や、政策分野を横断した総合的な認知症対策の必要性等について認識を共有いたしました。さらに、健康危機への対応については、より強靱な健康危機管理体制の必要性や、薬剤耐性(AMR)に関するワン・ヘルス・アプローチに基づく対応の必要性等を確認いたしました。また、シミュレーション・エクササイズでは、国際的なマス・ギャザリング(一定期間、限定された地域において、同一目的で集合した多数の集団)における感染症流行への対応について、架空のシナリオを元に、臨場感あふれる議論が展開されました。

今会合では参加した保健大臣等による議論に加え、前日には地元主催の歓迎レセプション、19日には地元小学生による歓迎セレモニーのほか、20日には岡山市の持続可能な健康づくりを目指したBRANCH岡山北長瀬や岡山大学病院が行う最先端治療の視察が行われるなど、岡山市の皆様方には、準備段階から会合本番に至るまで多大なご尽力をいただきました。特に、大森市長から岡山市の健康寿命延伸に向けた取り組みをご紹介いただいたこと、また、市内の高校生から会合参加者に対し、「女性と子どもの健康」について、力強いご提言をいただいたことは、各国の参加者にも非常に印象深く、意義のあることだったと思います。地元の皆様のご尽力に敬意を表しますとともに、本会合を通じ、岡山の魅力が様々な形で世界に発信され、参加者すべての心に素晴らしい印象が残されたものと確信しております。岡山の皆様にとりましても、本会合が、健康・保健医療に対する関心が深まる機会となれば幸いです。岡山が、この分野で日本をリードしていける地域になっていくこと、そして、国際社会において存在感を発揮し、ますますご発展されることを期待して、私からのあいさつとさせていただきます。